



例題 1

次の計算をなさい。

- (1) 564×273
- (2) 347×405
- (3) 7200×460

答え (1) 153972 (2) 140535 (3) 3312000

[例題 1 の解説]

- (1) 右のようになります。

数が大きくなってもひっ算の方法は同じです。

1ケタずつずらして最後に足し算をします。

かけ算の答えを積せきと言います。

564と278の積は153972です。

$$\begin{array}{r}
 564 \\
 \times 273 \\
 \hline
 1692 \quad \leftarrow \text{----- } 564 \times 3 \\
 3948 \quad \leftarrow \text{----- } 564 \times 7 \\
 1128 \quad \leftarrow \text{----- } 564 \times 2 \\
 \hline
 153972
 \end{array}$$

- (2)

$$\begin{array}{r}
 347 \\
 \times 405 \\
 \hline
 1735 \quad \leftarrow \text{----- } 347 \times 5 \\
 000 \quad \leftarrow \text{----- } 347 \times 0 \\
 1388 \quad \leftarrow \text{----- } 347 \times 4 \\
 \hline
 140535
 \end{array}$$

347×0 を省略しょうりゃくして計算しても同じです。

$$\begin{array}{r}
 347 \\
 \times 405 \\
 \hline
 1735 \quad \leftarrow \text{----- } 347 \times 5 \\
 1388 \quad \leftarrow \text{----- } 347 \times 4 \\
 \hline
 140535
 \end{array}$$



例題と解説

(3)

ひっ算①

$$\begin{array}{r} 7200 \\ \times 460 \\ \hline 0000 \\ 43200 \\ 28800 \\ \hline 3312000 \end{array}$$

ひっ算②

$$\begin{array}{r} 7200 \\ \times 460 \\ \hline 4320 \\ 2880 \\ \hline 3312000 \end{array}$$

0を2個つける

ひっ算③

$$\begin{array}{r} 7200 \\ \times 460 \\ \hline 432 \\ 288 \\ \hline 3312000 \end{array}$$

0を3個つける

上のように3通りのひっ算の方法があります。

どの方法でも答えは同じです。

ひっ算③では初めに0を省いて計算し、最後に省いた3つの0を付け足しています。

0が付いているかけ算ではできるだけひっ算③のように計算しましょう。

ポイントまとめ

- かけ算の答えを^{せき}積と言います。
- 0が付いているかけ算では初めに0を省いて計算し、最後に省いた0を付け足すと^{かんたん}簡単です。